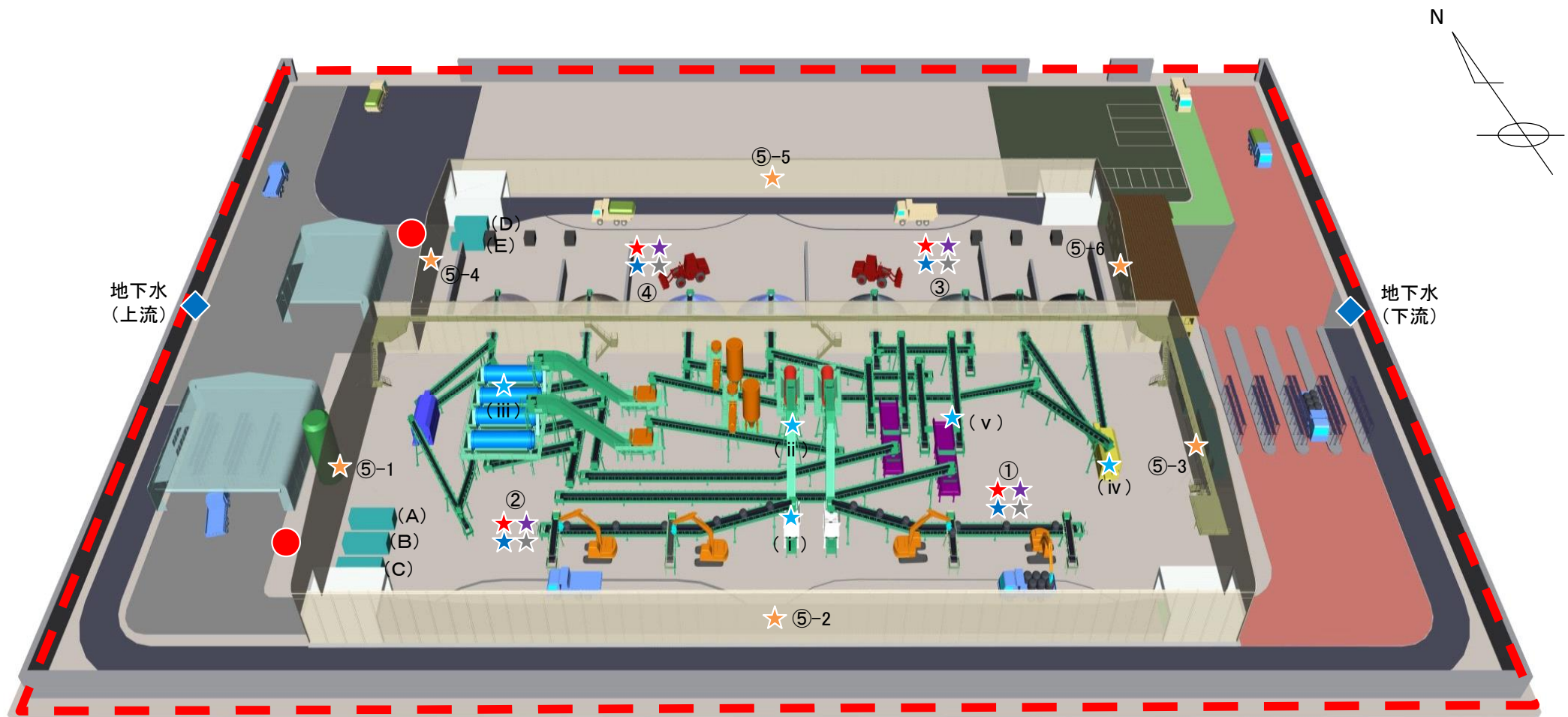


# 受入・分別施設(1期双葉工区)における 周辺環境及び作業環境測定地点(月次測定)



## 凡例

- ◆ : 地下水中の放射能濃度等
- ★ : 空間線量率(作業環境)
- ★ : 表面汚染密度(壁)

- : 排気中の放射能濃度
- ★ : 空気中の放射能濃度
- ★ : 表面汚染密度(設備)

- ★ : 粉じん濃度
- ★ : 表面汚染密度(床)
- : 敷地境界線

# 受入・分別施設(1期双葉工区)における 周辺環境及び作業環境測定結果(月次測定) 2018年3月

## ◆地下水中の放射能濃度等

測定地点	測定日	測定項目	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)	放射能濃度 (Bq/L)
上流	2017/6/1	(稼働前)	46	54	ND
	2018/3/1	(稼働後)	82	140	ND
下流	2017/6/1	(稼働前)	49	30	ND
	2018/3/1	(稼働後)	62	130	ND

放射能濃度検出下限値：1 Bq/L

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度/60+セシウム137の濃度/90 $\leq$ 1

## ●排気中の放射能濃度

測定地点	測定対象	2018/3/5 (稼働後) 放射能濃度 (Bq/m <sup>3</sup> )
集じん機A	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機B	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機C	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機D	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機E	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND

放射能濃度検出下限値：ろ紙部：0.07 Bq/m<sup>3</sup>、ドレン部：0.2 Bq/m<sup>3</sup>

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/m<sup>3</sup>]の限度：セシウム134の濃度/20+セシウム137の濃度/30 $\leq$ 1

## ★粉じん濃度

測定地点	2018/3/30 (稼働後) 粉じん濃度 (mg/m <sup>3</sup> )
①	0.88
②	2.99
③	0.44
④	0.32

定量下限値：0.01mg/m<sup>3</sup>、高濃度粉じんの下限値：10mg/m<sup>3</sup>

## ★空間線量率(作業環境)

測定地点	2018/3/16 (稼働後) 空間線量率 ( $\mu$ Sv/h)
①	0.08
②	0.13
③	0.20
④	0.11

## ★空気中の放射能濃度

測定地点	2018/3/9 (稼働後) 放射能濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )
①	ND
②	ND
③	ND
④	ND

放射能濃度検出下限値：セシウム134：5.0  $\times 10^{-7}$  Bq/cm<sup>3</sup>、セシウム137：5.0  $\times 10^{-7}$  Bq/cm<sup>3</sup>

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/cm<sup>3</sup>]の限度：セシウム134の濃度/2 $\times 10^{-3}$ +セシウム137の濃度/3 $\times 10^{-3}$  $\leq$ 1

## 表面汚染密度(★床、★壁、★設備)

測定地点		2018/3/7 (稼働後) 表面汚染密度 (Bq/cm <sup>2</sup> )
床	①	ND
	②	ND
	③	ND
	④	ND
壁	⑤-1	ND
	⑤-2	ND
	⑤-3	ND
	⑤-4	ND
	⑤-5	ND
	⑤-6	ND
設備	(i)破袋設備	ND
	(ii)一次分別設備	ND
	(iii)二次分別設備	ND
	(iv)可燃物分離設備	ND
	(v)濃度測定設備	ND

表面汚染密度検出下限値：0.63 Bq/cm<sup>2</sup>

NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。

限度：40Bq/cm<sup>2</sup>

# 受入・分別施設(1期双葉工区)における 周辺環境及び作業環境測定結果(月次測定) 2018年2月

## ◆ 地下水中の放射能濃度等

測定地点	測定項目	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)	放射能濃度 (Bq/L)
上流	2017/6/1 (稼働前)	46	54	ND
	2018/2/8 (稼働後)	76	77	ND
下流	2017/6/1 (稼働前)	49	30	ND
	2018/2/8 (稼働後)	64	140	ND

放射能濃度検出下限値: 1Bq/L

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/L]の基準: セシウム134の濃度/60+セシウム137の濃度/90 ≤ 1

## ● 排気中の放射能濃度

測定地点	測定対象	2018/2/5 (稼働後) 放射能濃度 (Bq/m <sup>3</sup> )
集じん機A	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機B	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機C	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機D	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機E	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND

放射能濃度検出下限値: ろ紙部: 0.07Bq/m<sup>3</sup>、ドレン部: 0.2Bq/m<sup>3</sup>

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/m<sup>3</sup>]の限度: セシウム134の濃度/20+セシウム137の濃度/30 ≤ 1

## ★ 粉じん濃度

測定地点	2018/2/9 (稼働後) 粉じん濃度 (mg/m <sup>3</sup> )
①	0.03
②	0.03
③	0.13
④	0.08

定量下限値: 0.01mg/m<sup>3</sup>、管理濃度: 3.0mg/m<sup>3</sup>

## ★ 空間線量率 (作業環境)

測定地点	2018/2/15 (稼働後) 空間線量率 (μSv/h)
①	0.07
②	0.10
③	0.12
④	0.50

## ★ 空気中の放射能濃度

測定地点	2018/2/9 (稼働後) 放射能濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )
①	ND
②	ND
③	ND
④	ND

放射能濃度検出下限値:  $5.0 \times 10^{-7}$  Bq/cm<sup>3</sup>

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/cm<sup>3</sup>]の限度: セシウム134の濃度/2 × 10<sup>-3</sup> + セシウム137の濃度/3 × 10<sup>-3</sup> ≤ 1

## 表面汚染密度 (★床、★壁、★設備)

測定地点		2018/2/7 (稼働後) 表面汚染密度 (Bq/cm <sup>2</sup> )
床	①	ND
	②	ND
	③	ND
	④	ND
壁	⑤-1	ND
	⑤-2	ND
	⑤-3	ND
	⑤-4	ND
	⑤-5	ND
	⑤-6	ND
設備	(i) 破袋設備	ND
	(ii) 一次分別設備	ND
	(iii) 二次分別設備	ND
	(iv) 可燃物分離設備	ND
	(v) 濃度分別設備	ND

バックグラウンド約0.3Bq/cm<sup>2</sup>を差し引いた値 検出下限値: 0.63Bq/cm<sup>2</sup>

NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。

限度: 40Bq/cm<sup>2</sup>

# 受入・分別施設(1期双葉工区)における 周辺環境及び作業環境測定結果(月次測定) 2018年1月

## ◆ 地下水中の放射能濃度等

測定地点	測定項目	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)	放射能濃度 (Bq/L)
上流	2017/6/1 (稼働前)	46	54	ND
	2018/1/4 (稼働後)	77	69	ND
下流	2017/6/1 (稼働前)	49	30	ND
	2018/1/4 (稼働後)	70	150	ND

放射能濃度検出下限値: 1Bq/L

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/L]の基準: セシウム134の濃度/60+セシウム137の濃度/90 ≤ 1

## ● 排気中の放射能濃度

測定地点	測定対象	2018/1/15 (稼働後) 放射能濃度 (Bq/m <sup>3</sup> )
集じん機A	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機B	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機C	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機D	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機E	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND

放射能濃度検出下限値: ろ紙部: 0.07Bq/m<sup>3</sup>、ドレン部: 0.2Bq/m<sup>3</sup>

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/m<sup>3</sup>]の限度: セシウム134の濃度/20+セシウム137の濃度/30 ≤ 1

## ★ 粉じん濃度

測定地点	2018/1/15 (稼働後) 粉じん濃度 (mg/m <sup>3</sup> )
①	0.02
②	0.01
③	0.22
④	0.20

定量下限値: 0.01mg/m<sup>3</sup>、管理濃度: 3.0mg/m<sup>3</sup>

## ★ 空間線量率 (作業環境)

測定地点	2018/1/13 (稼働後) 空間線量率 (μSv/h)
①	0.06
②	0.15
③	0.14
④	0.22

## ★ 空気中の放射能濃度

測定地点	2018/1/15 (稼働後) 放射能濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )
①	ND
②	ND
③	ND
④	ND

放射能濃度検出下限値:  $5.0 \times 10^{-7}$  Bq/cm<sup>3</sup>

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/cm<sup>3</sup>]の限度: セシウム134の濃度/2 × 10<sup>-3</sup> + セシウム137の濃度/3 × 10<sup>-3</sup> ≤ 1

## 表面汚染密度 (★床、★壁、★設備)

測定地点		2018/1/9 (稼働後) 表面汚染密度 (Bq/cm <sup>2</sup> )
床	①	ND
	②	ND
	③	ND
	④	ND
壁	⑤-1	ND
	⑤-2	ND
	⑤-3	ND
	⑤-4	ND
	⑤-5	ND
	⑤-6	ND
設備	(i) 破袋設備	ND
	(ii) 一次分別設備	ND
	(iii) 二次分別設備	ND
	(iv) 可燃物分離設備	ND
	(v) 濃度分別設備	ND

バックグラウンド約0.3Bq/cm<sup>2</sup>を差し引いた値 検出下限値: 0.63Bq/cm<sup>2</sup>

NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。

限度: 40Bq/cm<sup>2</sup>

# 受入・分別施設(1期双葉工区)における 周辺環境及び作業環境測定結果(月次測定) 2017年12月

## ◆ 地下水中の放射能濃度等

測定地点	測定日	測定項目	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)	放射能濃度 (Bq/L)
上流	2017/6/1	(稼働前)	46	54	ND
	2017/12/7	(稼働後)	80	54	ND
下流	2017/6/1	(稼働前)	49	30	ND
	2017/12/7	(稼働後)	65	120	ND

放射能濃度検出下限値: 1Bq/L

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/L]の基準: セシウム134の濃度/60+セシウム137の濃度/90 ≤ 1

## ● 排気中の放射能濃度

測定地点	測定対象	2017/12/4 (稼働後) 放射能濃度 (Bq/m <sup>3</sup> )
集じん機A	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機B	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機C	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機D	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機E	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND

放射能濃度検出下限値: ろ紙部: 0.07Bq/m<sup>3</sup>、ドレン部: 0.2Bq/m<sup>3</sup>

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/m<sup>3</sup>]の限度: セシウム134の濃度/20+セシウム137の濃度/30 ≤ 1

## ★ 粉じん濃度

測定地点	2017/12/8 (稼働後) 粉じん濃度 (mg/m <sup>3</sup> )
①	0.05
②	0.18
③	0.08
④	0.09

定量下限値: 0.01mg/m<sup>3</sup>、管理濃度: 3.0mg/m<sup>3</sup>

## ★ 空間線量率 (作業環境)

測定地点	2017/12/13 (稼働後) 空間線量率 (μSv/h)
①	0.07
②	0.07
③	0.15
④	0.20

## ★ 空気中の放射能濃度

測定地点	2017/12/8 (稼働後) 放射能濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )
①	ND
②	ND
③	ND
④	ND

放射能濃度検出下限値:  $3.6 \times 10^{-5}$  Bq/cm<sup>3</sup>

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/cm<sup>3</sup>]の限度: セシウム134の濃度/ $2 \times 10^{-3}$ +セシウム137の濃度/ $3 \times 10^{-3}$  ≤ 1

## 表面汚染密度 (★床、★壁、★設備)

測定地点		2017/12/7 (稼働後) 表面汚染密度 (Bq/cm <sup>2</sup> )
床	①	ND
	②	ND
	③	ND
	④	ND
壁	⑤-1	ND
	⑤-2	ND
	⑤-3	ND
	⑤-4	ND
	⑤-5	ND
	⑤-6	ND
設備	(i) 破袋設備	ND
	(ii) 一次分別設備	ND
	(iii) 二次分別設備	ND
	(iv) 可燃物分離設備	ND
	(v) 濃度分別設備	ND

バックグラウンド約0.3Bq/cm<sup>2</sup>を差し引いた値 検出下限値: 0.63Bq/cm<sup>2</sup>

NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。

限度: 40Bq/cm<sup>2</sup>



# 受入・分別施設(1期双葉工区)における 周辺環境及び作業環境測定結果(月次測定) 2017年11月

## ◆地下水中の放射能濃度等

測定地点	測定項目	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)	放射能濃度 (Bq/L)
上流	2017/6/1 (稼働前)	46	54	ND
	2017/11/2 (稼働後)	73	62	ND
下流	2017/6/1 (稼働前)	49	30	ND
	2017/11/2 (稼働後)	45	73	ND

放射能濃度検出下限値: 1Bq/L

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/L]の基準: セシウム134の濃度/60+セシウム137の濃度/90 ≤ 1

## ●排気中の放射能濃度

測定地点	測定対象	2017/11/6 (稼働後) 放射能濃度 (Bq/m <sup>3</sup> )
集じん機A	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機B	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機C	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機D	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機E	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND

放射能濃度検出下限値: ろ紙部: 0.07Bq/m<sup>3</sup>、ドレン部: 0.2Bq/m<sup>3</sup>

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/m<sup>3</sup>]の限度: セシウム134の濃度/20+セシウム137の濃度/30 ≤ 1

## ★粉じん濃度

測定地点	2017/11/10 (稼働後) 粉じん濃度 (mg/m <sup>3</sup> )
①	0.03
②	0.08
③	0.08
④	0.02

定量下限値: 0.01mg/m<sup>3</sup>、管理濃度: 3.0mg/m<sup>3</sup>

## ★空間線量率(作業環境)

測定地点	2017/11/13 (稼働後) 空間線量率 (μSv/h)
①	0.07
②	0.07
③	0.08
④	0.08

## ★空気中の放射能濃度

測定地点	2017/11/10 (稼働後) 放射能濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )
①	ND
②	ND
③	ND
④	ND

放射能濃度検出下限値:  $3.3 \times 10^{-5}$  Bq/cm<sup>3</sup>

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/cm<sup>3</sup>]の限度: セシウム134の濃度/2 × 10<sup>-3</sup> + セシウム137の濃度/3 × 10<sup>-3</sup> ≤ 1

## 表面汚染密度 (★床、★壁、★設備)

測定地点		2017/11/7 (稼働後) 表面汚染密度 (Bq/cm <sup>2</sup> )
床	①	ND
	②	ND
	③	ND
	④	ND
壁	⑤-1	ND
	⑤-2	ND
	⑤-3	ND
	⑤-4	ND
	⑤-5	ND
	⑤-6	ND
設備	(i) 破袋設備	ND
	(ii) 一次分別設備	ND
	(iii) 二次分別設備	ND
	(iv) 可燃物分離設備	ND
	(v) 濃度分別設備	ND

バックグラウンド約0.3Bq/cm<sup>2</sup>を差し引いた値 検出下限値: 0.63Bq/cm<sup>2</sup>

NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。

限度: 40Bq/cm<sup>2</sup>

# 受入・分別施設(1期双葉工区)における 周辺環境及び作業環境測定結果(月次測定) 2017年10月

## ◆ 地下水中の放射能濃度等

測定地点	測定日	測定項目	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)	放射能濃度 (Bq/L)
上流	2017/6/1	(稼働前)	46	54	ND
	2017/10/5	(稼働後)	99	38	ND
下流	2017/6/1	(稼働前)	49	30	ND
	2017/10/5	(稼働後)	56	93	ND

放射能濃度検出下限値: 1Bq/L

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/L]の基準: セシウム134の濃度/60+セシウム137の濃度/90 ≤ 1

## ● 排気中の放射能濃度

測定地点	測定対象	2017/10/10 (稼働後) 放射能濃度 (Bq/m <sup>3</sup> )
集じん機A	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機B	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機C	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機D	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機E	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND

放射能濃度検出下限値: ろ紙部: 0.07Bq/m<sup>3</sup>、ドレン部: 0.2Bq/m<sup>3</sup>

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/m<sup>3</sup>]の限度: セシウム134の濃度/20+セシウム137の濃度/30 ≤ 1

## ★ 粉じん濃度

測定地点	2017/10/6 (稼働後) 粉じん濃度 (mg/m <sup>3</sup> )
①	0.11
②	0.07
③	0.23
④	0.16

定量下限値: 0.01mg/m<sup>3</sup>、管理濃度: 3.0mg/m<sup>3</sup>

## ★ 空間線量率 (作業環境)

測定地点	2017/10/2 (稼働後) 空間線量率 (μSv/h)
①	0.07
②	0.07
③	0.08
④	0.08

## ★ 空気中の放射能濃度

測定地点	2017/10/6 (稼働後) 放射能濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )
①	ND
②	ND
③	ND
④	ND

放射能濃度検出下限値:  $2.4 \times 10^{-5}$  Bq/cm<sup>3</sup>

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/cm<sup>3</sup>]の限度: セシウム134の濃度/ $2 \times 10^{-3}$ +セシウム137の濃度/ $3 \times 10^{-3}$  ≤ 1

## 表面汚染密度 (★床、★壁、★設備)

測定地点		2017/10/7 (稼働後) 表面汚染密度 (Bq/cm <sup>2</sup> )
床	①	ND
	②	ND
	③	ND
	④	ND
壁	⑤-1	ND
	⑤-2	ND
	⑤-3	ND
	⑤-4	ND
	⑤-5	ND
	⑤-6	ND
設備	(i) 破袋設備	ND
	(ii) 一次分別設備	ND
	(iii) 二次分別設備	ND
	(iv) 可燃物分離設備	ND
	(v) 濃度分別設備	ND

バックグラウンド約0.3Bq/cm<sup>2</sup>を差し引いた値 検出下限値: 0.63Bq/cm<sup>2</sup>

NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。

限度: 40Bq/cm<sup>2</sup>

# 受入・分別施設(1期双葉工区)における 周辺環境及び作業環境測定結果(月次測定) 2017年9月

## ◆ 地下水中の放射能濃度等

測定地点	測定日	測定項目	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)	放射能濃度 (Bq/L)
上流	2017/6/1	(稼働前)	46	54	ND
	2017/9/7	(稼働後)	89	56	ND
下流	2017/6/1	(稼働前)	49	30	ND
	2017/9/7	(稼働後)	56	99	ND

放射能濃度検出下限値: 1Bq/L

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/L]の基準: セシウム134の濃度/60+セシウム137の濃度/90 ≤ 1

## ● 排気中の放射能濃度

測定地点	測定対象	2017/9/25 (稼働後) 放射能濃度 (Bq/m <sup>3</sup> )
集じん機A	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機B	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機C	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機D	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機E	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND

放射能濃度検出下限値: ろ紙部: 0.07Bq/m<sup>3</sup>、ドレン部: 0.3Bq/m<sup>3</sup>

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/m<sup>3</sup>]の限度: セシウム134の濃度/20+セシウム137の濃度/30 ≤ 1

## ★ 粉じん濃度

測定地点	2017/9/22 (稼働後) 粉じん濃度 (mg/m <sup>3</sup> )
①	0.20
②	0.05
③	0.08
④	0.08

定量下限値: 0.01mg/m<sup>3</sup>、管理濃度: 3.0mg/m<sup>3</sup>

## ★ 空間線量率 (作業環境)

測定地点	2017/9/1 (稼働後) 空間線量率 (μSv/h)
①	0.07
②	0.07
③	0.08
④	0.08

## ★ 空気中の放射能濃度

測定地点	2017/9/22 (稼働後) 放射能濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )
①	ND
②	ND
③	ND
④	ND

放射能濃度検出下限値:  $6.2 \times 10^{-5}$  Bq/cm<sup>3</sup>

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/cm<sup>3</sup>]の限度: セシウム134の濃度/2 × 10<sup>-3</sup> + セシウム137の濃度/3 × 10<sup>-3</sup> ≤ 1

## 表面汚染密度 (★床、★壁、★設備)

測定地点		2017/9/7 (稼働後) 表面汚染密度 (Bq/cm <sup>2</sup> )
床	①	ND
	②	ND
	③	ND
	④	ND
壁	⑤-1	ND
	⑤-2	ND
	⑤-3	ND
	⑤-4	ND
	⑤-5	ND
	⑤-6	ND
設備	(i) 破袋設備	ND
	(ii) 一次分別設備	ND
	(iii) 二次分別設備	ND
	(iv) 可燃物分離設備	ND
	(v) 濃度分別設備	ND

バックグラウンド約0.3Bq/cm<sup>2</sup>を差し引いた値 検出下限値: 0.63Bq/cm<sup>2</sup>

NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。

限度: 40Bq/cm<sup>2</sup>



# 受入・分別施設(1期双葉工区)における 周辺環境及び作業環境測定結果(月次測定) 2017年8月

## ◆地下水中の放射能濃度等

測定地点	測定項目	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)	放射能濃度 (Bq/L)
上流	2017/6/1 (稼働前)	46	54	ND
	2017/8/3 (稼働後)	110	29	ND
下流	2017/6/1 (稼働前)	49	30	ND
	2017/8/3 (稼働後)	56	55	ND

放射能濃度検出下限値: 1Bq/L

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/L]の基準: セシウム134の濃度/60+セシウム137の濃度/90 ≤ 1

## ●排気中の放射能濃度

測定地点	測定対象	2017/8/28 (稼働後) 放射能濃度 (Bq/m <sup>3</sup> )
集じん機A	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機B	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機C	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機D	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機E	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND

放射能濃度検出下限値: ろ紙部: 0.08Bq/m<sup>3</sup>、ドレン部: 0.3Bq/m<sup>3</sup>

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/m<sup>3</sup>]の限度: セシウム134の濃度/20+セシウム137の濃度/30 ≤ 1

## ★粉じん濃度

測定地点	2017/8/25 (稼働後) 粉じん濃度 (mg/m <sup>3</sup> )
①	0.14
②	0.10
③	0.16
④	0.17

定量下限値: 0.01mg/m<sup>3</sup>、管理濃度: 3.0mg/m<sup>3</sup>

## ★空間線量率(作業環境)

測定地点	2017/8/1 (稼働後) 空間線量率 (μSv/h)
①	0.07
②	0.07
③	0.08
④	0.08

## ★空気中の放射能濃度

測定地点	2017/8/25 (稼働後) 放射能濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )
①	ND
②	ND
③	ND
④	ND

放射能濃度検出下限値:  $2.9 \times 10^{-5}$  Bq/cm<sup>3</sup>

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/cm<sup>3</sup>]の限度: セシウム134の濃度/ $2 \times 10^{-3}$ +セシウム137の濃度/ $3 \times 10^{-3}$  ≤ 1

## 表面汚染密度 (★床、★壁、★設備)

測定地点		2017/8/7 (稼働後) 表面汚染密度 (Bq/cm <sup>2</sup> )
床	①	ND
	②	ND
	③	ND
	④	ND
壁	⑤-1	ND
	⑤-2	ND
	⑤-3	ND
	⑤-4	ND
	⑤-5	ND
	⑤-6	ND
設備	(i) 破袋設備	ND
	(ii) 一次分別設備	ND
	(iii) 二次分別設備	ND
	(iv) 可燃物分離設備	ND
	(v) 濃度分別設備	ND

バックグラウンド約0.3Bq/cm<sup>2</sup>を差し引いた値 検出下限値: 0.63Bq/cm<sup>2</sup>

NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。

限度: 40Bq/cm<sup>2</sup>

# 受入・分別施設(1期双葉工区)における 周辺環境及び作業環境測定結果(月次測定) 2017年7月

## ◆ 地下水中の放射能濃度等

測定地点	測定項目	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)	放射能濃度 (Bq/L)
上流	2017/6/1 (稼働前)	46	54	ND
	2017/7/6 (稼働後)	140	21	ND
下流	2017/6/1 (稼働前)	49	30	ND
	2017/7/6 (稼働後)	50	63	ND

放射能濃度検出下限値: 1Bq/L

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/L]の基準: セシウム134の濃度/60+セシウム137の濃度/90 ≤ 1

## ● 排気中の放射能濃度

測定地点	測定対象	2017/7/21 (稼働後) 放射能濃度 (Bq/m <sup>3</sup> )
集じん機A	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機B	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機C	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機D	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機E	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND

放射能濃度検出下限値: ろ紙部: 0.08Bq/m<sup>3</sup>、ドレン部: 0.2Bq/m<sup>3</sup>

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/m<sup>3</sup>]の限度: セシウム134の濃度/20+セシウム137の濃度/30 ≤ 1

## ★ 粉じん濃度

測定地点	2017/7/27 (稼働後) 粉じん濃度 (mg/m <sup>3</sup> )
①	0.18
②	0.57
③	0.21
④	0.29

定量下限値: 0.01mg/m<sup>3</sup>、管理濃度: 3.0mg/m<sup>3</sup>

## ★ 空間線量率 (作業環境)

測定地点	2017/7/1 (稼働後) 空間線量率 (μSv/h)
①	0.07
②	0.07
③	0.10
④	0.08

## ★ 空気中の放射能濃度

測定地点	2017/7/27 (稼働後) 放射能濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )
①	ND
②	ND
③	ND
④	ND

放射能濃度検出下限値:  $2.6 \times 10^{-5}$  Bq/cm<sup>3</sup>

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/cm<sup>3</sup>]の限度: セシウム134の濃度/ $2 \times 10^{-3}$ +セシウム137の濃度/ $3 \times 10^{-3}$  ≤ 1

## 表面汚染密度 (★床、★壁、★設備)

測定地点		2017/7/7 (稼働後) 表面汚染密度 (Bq/cm <sup>2</sup> )
床	①	ND
	②	ND
	③	ND
	④	ND
壁	⑤-1	ND
	⑤-2	ND
	⑤-3	ND
	⑤-4	ND
	⑤-5	ND
	⑤-6	ND
設備	(i) 破袋設備	ND
	(ii) 一次分別設備	ND
	(iii) 二次分別設備	ND
	(iv) 可燃物分離設備	ND
	(v) 濃度分別設備	ND

バックグラウンド約0.3Bq/cm<sup>2</sup>を差し引いた値 検出下限値: 0.63Bq/cm<sup>2</sup>

NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。

限度: 40Bq/cm<sup>2</sup>

# 受入・分別施設(1期双葉工区)における 周辺環境及び作業環境測定結果(月次測定) 2017年6月

## ◆ 地下水中の放射能濃度等

測定地点	測定項目 測定日	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)	放射能濃度 (Bq/L)
上流	2017/6/1 (稼働前)	46	54	ND
	2017/6/12 (稼働後)	42	29	ND
下流	2017/6/1 (稼働前)	49	30	ND
	2017/6/12 (稼働後)	50	25	ND

放射能濃度検出下限値: 1Bq/L

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/L]の基準: セシウム134の濃度/60+セシウム137の濃度/90 $\leq$ 1

## ● 排気中の放射能濃度

測定地点	測定対象	2017/6/23 (稼働後) 放射能濃度 (Bq/m <sup>3</sup> )
集じん機A	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機B	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機C	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機D	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND
集じん機E	円筒ろ紙	ND
	ドレン部	ND

放射能濃度検出下限値: ろ紙部: 0.09Bq/m<sup>3</sup>、ドレン部: 0.3Bq/m<sup>3</sup>

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/m<sup>3</sup>]の限度: セシウム134の濃度/20+セシウム137の濃度/30 $\leq$ 1

## ★ 粉じん濃度

測定地点	2017/6/30 (稼働後) 粉じん濃度 (mg/m <sup>3</sup> )
①	0.18
②	0.16
③	0.17
④	0.16

定量下限値: 0.01mg/m<sup>3</sup>、管理濃度: 3.0mg/m<sup>3</sup>

## ★ 空間線量率 (作業環境)

翌月より測定を開始するため、測定結果は未記載。

## ★ 空気中の放射能濃度

測定地点	2017/6/30 (稼働後) 放射能濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )
①	ND
②	ND
③	ND
④	ND

放射能濃度検出下限値:  $2.5 \times 10^{-5}$  Bq/cm<sup>3</sup>

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/cm<sup>3</sup>]の限度: セシウム134の濃度/ $2 \times 10^{-3}$ +セシウム137の濃度/ $3 \times 10^{-3}$  $\leq$ 1

## 表面汚染密度 (★床、★壁、★設備)

測定地点		2017/6/21 (稼働後) 表面汚染密度 (Bq/cm <sup>2</sup> )
床	①	ND
	②	ND
	③	ND
	④	ND
壁	⑤-1	ND
	⑤-2	ND
	⑤-3	ND
	⑤-4	ND
	⑤-5	ND
	⑤-6	ND
設備	(i) 破袋設備	ND
	(ii) 一次分別設備	ND
	(iii) 二次分別設備	ND
	(iv) 可燃物分離設備	ND
	(v) 濃度分別設備	ND

バックグラウンド約0.3Bq/cm<sup>2</sup>を差し引いた値 検出下限値: 0.63Bq/cm<sup>2</sup>

NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。

限度: 40Bq/cm<sup>2</sup>